神戸に爽やかな風を起こそう

m·int KOBE

「ミント神戸」

インタビュー

稲垣嗣夫さん

（神戸新聞社代表取締役社長）

神戸の戦後復興のシンボルとなった
旧神戸新聞会館が完成したのが1956年。
震災で全壊という憂き目にあい、
今年2006年10月4日、
ちょうど半世紀を経て再生される。

「ミント神戸（神戸新聞会館ビル）」。
震災復興を締めくくるランドマークとして
神戸市民の期待を集めている。
さまざまな思いを胸に
ビル再建に携わってこられた、
稲垣社長にお聞きした。

It is newborn in「sannomiya」

神戸の玄関口・三宮で都市生活を楽しむ

神戸新聞社代表取締役社長 稲垣嗣夫さん

―いよいよオープンおめでとうございます。ステキなネーミングですね。

稲垣　「M・INT」には、「神戸に爽やかな風を起こしたい」という思いや、いろんな「M」を統合するビルとの意味を込めています。「M」は、「Media」「Mountain」「Meet」「Meal」…、「INT」は「Integration」「Interest」「International」…。ミントグリーンのビルは神戸で他にないでしょう？景観も爽やかでしょ。神戸の玄関口・三宮で「震災の傷が癒えたんだな」というランドマークになればいいなと思っています。

―神戸は戦災、震災、水害などで壊滅的な被害を受けながら、そこから新たに立ち上がる気力を持つ街ですからね。

稲垣　そうです。人類は元々、自然災害との戦いです。災害に叩きのめされて、立ち直る…この繰り返しです。神戸は歴史的には比較的穏やかな街だったのですが、近年、水害や震災という大規模な自然災害にあいました。いかに復興するかということに関しては、他のどの都市にもないガンバリを日本中に示し、模範的な都市の再生をしてきたと思います。

―どういったコンセプトで再建計画を立てられましたか。

稲垣　新聞会館跡地は、国の都市再生緊急整備地域に指定されています。さらに、公共性の高い都市再生プロジェクトとして特別地区に選ばれ、容積率が800％から1600％に緩和されました。つまり、駅前立地で、高度利用によって多くの人が都市生活を楽しめる複合ビルが可能となり、都市の活力が生み出される。そんな目標を掲げて計画を進めてきました。

―ビルは、どのような構成になっていますか。

稲垣　まず、三宮駅は神戸の玄関、県内最大の交通拠点です。ところが、駅前が狭いですね。そこで、駅前の機能を拡充することに協力したいと、1階をバスターミナルとして使っていただくことにしました。建物は地下2階、地上18階、高さ92メートル。地下1階と2～8階に物販と飲食、9～12階にシネマコンプレックス、13階～17階にオフィス、18階には眺めのいい特別室を予定しています。

また阪神三宮駅には現在、西改札口しかありません。4～5年後をめどに東口ができます。完成すると、ミント神戸に直結し、さんちかともつながります。また東隣りのサンシティービルとも地下でつながり、駅前の人

の流れの回遊性が非常に良くなります。さらに、生田川へ向けての三宮東部開発の拠点としても大きな役割を果たせる位置にあると思っています。

―旧新聞会館は、北側壁面の富士山が市民に親しまれていました。新しいビルには、どんな仕掛けがありますか。

稲垣　ビル全体を情報発信基地にしたいと思っています。壁面には関西最大級のＬＥＤビジョンが設置されます。兵庫県内の各行政とむすび、情報を動画で見ることができます。情報がないときは富士山を映そうと思ったんですが、ニュースで満杯。そんな余裕はないようです（笑）。また、筑波大学大学院教授にご協力いただき、ミント神戸の縦のストライプ「マリオン」に、発光ダイオードを埋め込み、地球に降り注ぐ宇宙線が当たると、夜間、シャワーのように光が流れる環境照明を創り出しました。まさに「宇宙と対話するビル」です。

文化発信をリードし、安全・安心な生活をサポート

―新聞社の社会での役割についての考えをお聞かせください。

稲垣　新聞社の役割は報道するだけではありません。人間のまろやかな心を醸成するための文化活動にも力を入れていこうと思っています。文化庁の河合隼雄長官は「経済は体、文化は心」と言っておられます。全く同感です。心とは、美しいものを美しい、良いものを良いと思える感性。これを養うには文化の力が必要です。ミント神戸17階には、ＫＣＣ（神戸新聞文化センター）がハーバーランドから移転します。ＫＣＣは昭和32年設立以来、会員1万人、６００人の講師を擁し、文化の普及に貢献しています。交通の結節点である三宮に開講することで、仕事帰りのおけいこ事や資格を取るための講座受講など、一層便利に使っていただけると思います。他にも、夢はいろいろ膨らんでいます。期待していてください。

新聞社のもう一つの役割は社会活動だと考えています。たとえば安心・安全な社会づくりの手助けをすること。兵庫県、県警、神戸新聞専売会、神戸新聞社で防犯協定をむすびました。約２７０ある神戸新聞専売店でたくさんの従業員が地域を隅々まで回っています。「不審な人はいないか」「ひとり暮らしのお年寄り宅のポストに新聞がたまっていないか」など、ちょっとした目配りをすることで地域の防犯見張り役を務めています。

―神戸新聞社として今後の経営に関してのお考えは。

稲垣　神戸新聞社に入社して42年になります。当時は田中寛次社長の時代でした。怖い社長でしたよ。「新聞は部数である」と言われました。経営センスを重視しておられましたね。今はまさに、その経営力の時代です。私は技術屋出身で、若いころはコンピューターばかりやっていました。「０」か「１」、「ある」か「ない」かの二進法。ロジカル、「理」の世界です。けれど私は、それだけで人間は動くものではないと思っています。やはり「情」も必要です。

情と理を尽くすのが私の経営テーマです。誉めるときは誉め、失敗したときは「何故か？」を追究し、次に生かしていく指導。私の趣味の囲碁・将棋と同じで、先を読むことが経営にも必要です。

「衆縁和合（しゅえんわごう）」人との出会いに感謝

―これからの神戸の街については、どうお考えですか。

稲垣　神戸は日本の最大公約数的な街であってはならないと思っています。ユニークな街であってほしいですね。海あり山あり、ファッショナブルでおいしいものもたくさんあるというシチュエーションは整っています。そこに住む人がおしゃれに生活を楽しもうという気持ちを持つ。昔から港があり七つの海に向かって開かれ、外国との文化交流の街でした。空港もできました。世界に通用する街にしようという意気込みで磨きをかけていきたいですね。

―神戸新聞については？

稲垣　神戸新聞は兵庫県で生まれ育ち、地域とともに生きる新聞です。私自身も実は「神戸っ子」ならぬ、尼崎生まれ西宮育ち、神戸で仕事をする「兵庫っ子」です。広い兵庫県は、日本の縮図ともいえます。農業あり、漁業あり、林業あり、日本海あり、瀬戸内海あり、島あり、農村部あり、都市部あり…さまざまな地域に、求められる情報を発信していかなくてはなりません。そんな広い地域なのに、「兵庫」とせずに神戸新聞としたのは、やはり「神戸」には強いブランド力があるからです。これを上手に使いながら、兵庫の郷土紙としての役割を果たしていくのが私たちの仕事だと思っています。

―これからの時代を背負う若者にひとことお願いします。

稲垣　私はいつも若い記者たちに、「せっかく志して記者になったのだから、一生かけても追いかけようというテーマを持て」と言っています。些細なことでもいいんです。夢や目標を持ちましょう。叶わないかもしれませんが、大切なのは「想い念ずる」気持ちで少しでも近付こうと努力することです。

「衆縁和合」というお釈迦さまのことばがあります。この世に存在するものはすべて赤い糸でむすばれています。ご縁があってお会いする機会を持つことができます。そして、「これから仲良くしましょう」「協力しましょう」と言えるのは幸せなことです。すべてに感謝の心を持つことです。

「食の阪神」が神戸に上陸!

さんのみや・阪神食品館（阪神百貨店三宮店）

ミント神戸の地下1階にさんのみや・阪神食品館（阪神百貨店三宮店）が出店。「こだわりと話題性のある食品提案」をストアコンセプトに、阪神自慢の生鮮三品（鮮魚・精肉・青果）で、「食の阪神」にふさわしく魅力的な店舗がそろう。また、阪神の新たな試みとして、「時間帯別商品提案」を惣菜ゾーンの一部で導入する。たとえば、朝から昼にかけては近隣で働くビジネスマンやOLを対象にお弁当のアイテムを増やし、夕方から夜にかけては会社帰りの客やショッピング客を対象にお惣菜のアイテムを増やすなど、時間帯によって、顧客のニーズに合わせた商品ラインナップに。

店舗は百貨店初や神戸初登場のブランドや商品がそろう。神戸ポートピアホテル「アラメゾン」、カスピア、レーブドゥシェフ、ソマールブランシュ、ルビアンなどの人気店が軒を連ねる。「食の阪神」をミント神戸地下フロアで満喫していただきたい。

神戸初登場となるベーカリー「ルビアン」

神戸初登場のジューススタンド「カスピア」

三宮インフォメーションギャラリー

三宮HATENA

ハ　テ　ナ

映像情報システム広告主募集要項

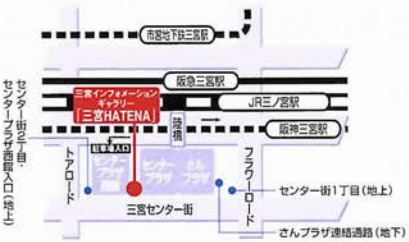
タッチパネル概要

■ システム（40インチモニター縦置き）設置場所

① センター街1丁目東端（野村證券前）
② 三宮連絡地下道（さんプラザ地下入口前）
③ センター街2丁目西端（センタープラザ西館西側入口前）

■ 放映時間

10:00～20:00（元旦除く）
※一部の時間帯で、センター街1丁目大型スクリーンでも放映予定



タッチパネル概要

1枠15秒　　映像制作費は別途となります。

基準（1枠15秒）		年間契約	SPOT契約（※2参照）
組合員（※1参照）	500㎡未満の店舗	252,000円	21,000円
	500㎡以上の店舗	504,000円	42,000円
非組合員	500㎡未満の店舗	1,260,000円	105,000円
	500㎡以上の店舗	2,520,000円	210,000円
上記以外の企業及び店舗		1,260,000円	105,000円

※1　さんプラザ、センタープラザ、センタープラザ西館の名店会加盟店。三宮センター街1・2・3丁目商店街振興組合、三宮センター街東通商店街協同組合、生田前筋商店街振興組合、三宮本通商店街振興組合の組合加盟店です。
※2　SPOT契約とは、最長2週間の短期契約となります。例）セールやイベント情報等の告知。

（株）神戸サンセンタープラザ　☎078－331－5311
三宮インフォメーションギャラリー　☎078－393－3358

さんちかで使える。世界で使える。

さんちかメンバーズカード

入会金・年会費 永年無料!!

ショッピングの割引、ポイントバンク、特別イベントのご案内など、会員特典がいっぱいの「さんちかメンバーズカード」。世界で使用できるJCB、VISA、マスターカードの中からお選びいただけます。

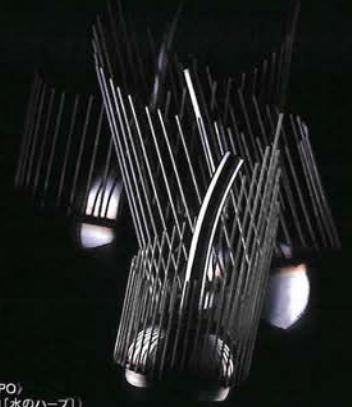
santica
The New Heart of Kobe 神戸・三宮さんちか
http://www.santica.com

さんちか名店会 神戸市中央区三宮町1-10-1 TEL.078(391)3965
●営業時間/AM10:00～PM8:00(飲食店はPM9:00オーダーストップ)●定休日/毎月第3水曜日

コレクション展Ⅱ 小企画
美術の中のかたち―手で見る造形

原田和男

《ΣΙΔΕΡΟ(シデロ) ΗΧΟΣ(イホス)－鉄の響－》



《APITA NEPO》
(アルパ・ネロ「水のハープ」)
1989年 Photo:Kazuaki Futazuka

作品に手で触れることをテーマとするこの展覧会シリーズは、1989年以来、当館が視覚に頼らない美術鑑賞の可能性を問いかけてきたものです。
今回は「かたちと音」をテーマとして活動を続けている音楽彫刻家の原田和男(はらだ・かずお 1951～)氏の作品を展示します。

2006年7月22日(土)
～11月19日(日)

● 同時開催の企画展
8月8日(火)～10月1日(日) アルベルト・ジャコメッティ展
10月18日(水)～12月17日(日) エコール・ド・パリ展ー素朴と郷愁

● 観覧料
一般500(300)円・大高生400(240)円・中小生250(150)円
※( )内は特別展セット割引料金
休 館 日:月曜日(月曜日が祝祭日の場合は開館し、翌火曜日休館)
開館時間:10時～18時 ※特別展開催中の金・土曜日は20時まで、入館は閉館の30分前まで

兵庫県立美術館 HYOGO PREFECTURAL MUSEUM OF ART
神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1
TEL.078-262-0901(代)

ストリートでのクラフト作品展示・即売

トアロード・クラフトアートフェア2006

～クラフトマンシップ溢れる街～KOBE・トアロード

10月7日（土）8日（日）
10時～午後6時頃

※天候等やむをえず開催不可能な場合は14日（土）15日（日）に延期

●クラフトの展示・販売／トアロードに面する歩道に展示ブースを設け、生活文化に密着した手作りのテキスタイル・陶芸・絵画・工芸品・装飾品など、各分野のアーティスト自慢の作品を展示・販売する。
出展ジャンル（予定）陶芸品、ガラス工芸品、家具、雑貨、割り箸、アクセサリー、からくりおもちゃ、絵画、絵はがき、レザークラフト等々…
●クラフト体験コーナーの開催（予定）

■お問い合わせ
トアロード・クラフトアートフェア
実行委員会事務局
☎078-321-3343

― これまでのブースのようす ―

オシャレで、モダンで、ファッショナブル…

神戸も、フランスも、そんなイメージがあります。

そして神戸と南欧の港町・マルセイユは姉妹都市で、北野はモンマルトルの丘と友好を結ぶなど、交流も盛んです。

この秋は芸術も、食も、小粋にフランスを気取ってみてはいかがでしょうか。

特集Ⅱ

この秋、神戸でフランスを

Cet automne, la France à Kobe...

le contenu est...

33 神戸のミュゼーに、パリの風
Le vent de Paris souffle dans les musées de Kobe
34 オルセー美術館展
36 アルベルト・ジャコメッティ展／エコール・ド・パリ展
38 荻須高徳展
39 19世紀末パリのポスターとモード展／平田郁展

40 座談会:神戸人、フランスを語る
Les habitants de Kobe parlent de la France

45 神戸フランスめぐり
Promenez-vous dans les lieux où il ya la présence de la France à Kobe
45 カサブランカ フランセーズ
46 カフェテラス・ド・パリ／フレンチレストラン　アッシュ
47 デュ・ラ・ナチュール／ル・コルドン・ブルー神戸校

神戸のミュゼーに、パリの風
Le vent de Paris souffle dans les musées de Kobe

表現する自由、
そして悦びがあふれている芸術の都、パリ。
豊かでおだやかな風土を愛し、
文化を誇りとする人たちの心が
世界の宝となるような芸術を育んできた国、フランス。
印象派、エコール・ド・パリ、アール・ヌーヴォー…
この秋、さまざまな時代・作風の名作が
パリ、そしてフランスから神戸にやって来ます。
芸術の秋
通覧して満喫するもよし、見くらべて愉しむよし、
神戸のミュゼーへ出かけて
心地よいフランスの風を感じてください。

アンリ・ファンタン＝ラトゥール
「バティニョールのアトリエ」
1870年

ジェームズ・ホイッスラー
「灰色と黒の編曲No.1、画家の母の肖像」
1871年

フィンセント・ファン・ゴッホ
「アルルのゴッホの寝室」
1889年

オルセー美術館展
「19世紀 芸術家たちの楽園」
9月29日（金）～2007年1月8日（月・祝）
神戸市立博物館

20世紀美術の探求者
アルベルト・ジャコメッティ展
矢内原伊作とともに
開催中～10月1日（日）
エコール・ド・パリ展
モディリアーニ、シャガール、藤田嗣治
10月18日（水）～12月17日（日）
兵庫県立美術館

特別展 没後20年
荻須高徳展
開催中～10月9日（月・祝）
神戸市小磯記念美術館

ロートレック・ミュシャ・シェレ
19世紀末パリのポスターとモード展
開催中～10月10日（火）
神戸ファッション美術館

元町画廊88周年記念
平田郁 油彩展
9月14日（木）～20日（水）
元町画廊

作品はすべて©musee d' Orsay-photo P. Schmidt

Collections du Musée d'Orsay

オルセー美術館展

「19世紀　芸術家たちの楽園」

9月29日(金)
～2007年1月8日(月・祝)

パリで美術を観るならば、3つの美術館ですべての時代を網羅できると言われている。ひとつは古代からの美術品が集うルーヴル美術館。次にフォービズム以降の20世紀の作品を収集するポンピドゥー・センター国立近代美術館。そしてフランス芸術史の中でも黄金時代とも言える19世紀の作品を、古い駅を改造した趣深い建物で鑑賞できるのがオルセー美術館だ。

今年で開館20周年を迎える美の殿堂・オルセーから、19世紀後半から20世紀前半（原則的にはフランスの二月革命・1848年から第一次世界大戦・1914年まで）にかけての、約7万8千点の壮大なコレクションの中より選ばれた珠玉の140点が、海を越え神戸にやってくる。

エドゥアール・マネ「すみれのブーケをつけたベルト・モリゾ」
1872年

1996年、1999年に引き続き3度目となる今回は、「オルセー美術館展」3部作の集大成と位置づけられている。「19世紀　芸術家たちの楽園」をテーマに、当時のフランスで活躍した芸術家たちが愛した人々や土地、環境などにスポットを当て、選りすぐりの作品を通して創作活動の根源となった世界～楽園を照射するものとなる。

ベルト・モリゾ「ゆりかご」1872年

産業革命により社会が変革、近代化が進み、フランス国土には線路が敷かれ、パリでは万博が5度もおこなわれた19世紀後半。急激な都市化や産業化の波の中、郊外、さらに南仏や中東などにも芸術家たちは足を運び、それぞれの理想にかなう制作の場を探すようになる。自然があふれるノルマンディーやブルターニュの村々には芸術家のコロニー（共同体）が形成された。ゴッホは南仏のアルルへ、ゴーガンははるか南洋のタヒチ

まで旅立った。一方でマネやドガのように都会の片隅にアトリエを構えた者もいた。

本展はセクションを5つに分け、それぞれのテーマに沿って芸術家たちの私的な生活や内面世界を垣間見ることができる。「Ⅰ・親密な時間」では、芸術家と家族や親しい人の関係を、「Ⅱ・特別な場所」ではパリ郊外の創作の場を、「Ⅲ・はるか彼方へ」では遠い異境に抱いた希望を、「Ⅳ・芸術家の生活―アトリエ・モデル・友人」では創作に密着した空間や環境を、「Ⅴ・幻想の世界へ」では芸術家自らの内面の世界をテーマとして、絵画、工芸、写真、デッサンが並ぶ。

クロード・モネ「アルジャントゥイユの船着場」1872年頃

ピエール＝オーギュスト・ルノワール「ジュリー・マネ」 1887年

セザンヌ、モネ、ルノワール…豊かな美の世界に誘うばかりでなく、輝かしい芸術創造の半世紀と言われている時代の精神、そして空気まで感じるようなエキシビションは見逃せない。神戸市立博物館はしばし「美のタイミナル」になるだろう。

作品はすべて©musée d' Orsay-photo P. Schmidt

オルセー美術館展
特設ホームページ
http://www.orsay3.com/

観覧料

一般	1,500円
大・高生	1,100円
中・小生	600円

神戸市立博物館

神戸市中央区京町24
☎078-391-0035
http://www.city.kobe.jp/cityoffice/57/museum/

■開館時間
9時30分～17時
（金・土・ルミナリエ開催期間中の12月8日［金］～21日［木］は19時まで）

■休館日/月曜日
（ただし10月2日・9日は開館、10月10日［火］は休館）および年末年始（12月25日［月］～1月1日［月］）

Access
- 新幹線「新神戸」から南へ車で約10分
- 神戸空港からはポートライナーで約18分、「三宮」下車
- 各線「三宮」から南西へ徒歩約10分
- JR、阪神「元町」から南東へ徒歩約10分

Alberto Giacometti

アルベルト・ジャコメッティ展

～20世紀美術の探求者～　開催中～10月1日(日)

矢内原伊作とともに

《ヴェニスの女Ⅷ》1956年　アサヒビール株式会社

20世紀を代表する彫刻家のひとり、アルベルト・ジャコメッティ（1901～1966）は、スイスのイタリア語圏出身で、100スイスフラン札の肖像としても知られている。彫刻のみならず絵画や版画でも作品を残している。

1922年からパリで活動。写実的な彫刻に飽きたらず、キュビズム、シュルレアリスム、原始彫刻の影響を受けた独創的な作風を発表。1935年からそれまでの作風から一転、人物像に回帰。大戦後の人物像は限界と思われるほど細長く、「現代における人間の実存を表現したもの」と哲学者・サルトルからも高い評価を受けた。

本展は「見えるがまま」を表現したジャコメッティの特異とも言える個性的な彫刻作品のみならず、絵画作品や貴重な資料の展示、日本人哲学者・矢内原伊作との交流などを通して、彼が生涯試み

L' École de Paris

エコール・ド・パリ展

―素朴と郷愁―　10月18日(水)～12月17日(日)

モディリアーニ、シャガール、藤田嗣治―パリに生きた画家たち

アンリ・ルソー《ライオンを狩る人》1907年頃　個人蔵

イタリアからモディリアーニ、ロシア（現ベラルーシ）からシャガール、ブルガリアからパスキン、そして日本からは藤田嗣治、と世界各地から若い芸術家が集い、交流を深めた20世紀初頭のパリ。モンマルトルやモンパルナスでは自由な表現が許容された雰囲気があり、芸術家たちは個性豊かな作品を生み出した。後の時代にも大きな影響を及ぼした彼らは「エコール・ド・パリ（パリ派）」と呼ばれている。

本展では20世紀前半のパリにおいて、純粋で素朴な表現を志向しつつもエトランゼとしての郷愁や哀愁を抱えたエコール・ド・パリの芸術家にスポットを当て、モディリアーニ、藤田嗣治、シャガール、キスリング、パスキン、ルソーらの油彩を中心として彫刻、水彩など25作家約80展を展示。また、芸術家たちの交流や生活の様子、当

美術館
インフォメーション

兵庫県立美術館「芸術の館」

兵庫県立美術館
神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1
☎078-262-0901
http://www.artm.pref.hyogo.jp/

■開館時間
10時～18時（入館は17時30分まで）
※特別展会期中の金曜日と土曜日は
10時～20時（入館は19時30分まで）
■休館日/月曜日
（月曜日が祝日の場合は翌日の火曜日）

［同時開催］ 開催中～11月19日(日)

コレクション展Ⅱ

「美術の中のかたち－手で見る造形」
／新収蔵品紹介ほか」

Access
阪神岩屋駅下車、徒歩約8分
三宮より市バスまたは
阪神バスHAT神戸方面行きで
県立美術館前下車、すぐ

た創造への探求に迫るもので、国内外より収集した140点近い作品を鑑賞できるまたとない機会となる。

©ADAGP, Paris & SPDA, Tokyo, 2006

《半身像のヤナイハラ》1955-56年頃
A.&A.ジャコメッティ財団、パリ

《ヤナイハラ Ⅰ》1960年
A.&A.ジャコメッティ財団、パリ

Photo by Marc Domage /©Fondation Alberto et Annette Giacometti, Paris

大人	1200（1000）円
大・高生	900（700）円
中・小生	500（300）円

観覧料
※（ ）内は前売および団体

時のアトリエやカフェの様子なども、写真資料や関係者インタビューを含む映像で紹介。華やかな時代のパリへのタイムトラベルを楽しみたい。

アメデオ・モディリアーニ
《扇を持つ女（ルニア・チェホフスカ）》
1919年 パリ市立近代美術館

ジュール・パスキン《小さな踊り子》
1924年 パリ市立近代美術館

大人	1300（1100）円
大・高生	900（700）円
中・小生	500（300）円

観覧料
※（ ）内は前売および団体

Takanori Oguiss

特別展　没後20年

荻須高徳展

開催中～10月9日(月・祝)

パリの街をこよなく愛し、その風景を味わい深いタッチで描いた「OGUISS」こと荻須高徳（1901～1986）は、日本とフランスの両国で近代絵画に大きな足跡を残した世界的な画家。

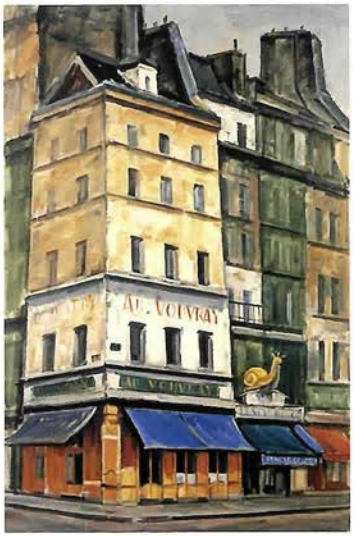
東京美術学校では小磯良平の同期。卒業後の1927年にフランスに渡り、パリに定住して裏通りや古い街並みなど、日常的な光景をキャンバスに切り取り、高い評価を受ける。

第二次大戦期間中は日本へ帰国するも終戦後1948年には日本人画家として最も早くフランス入国を認められ、パリで活動を再開。日仏の文化交流にも努め、1956年にはフランス政府からシュヴァリエ・ド・ラ・レジオン・ドヌール勲章を授与。シラク氏（現大統領）をして「最もフランス的な日本人」と言わしめた彼はパリで生涯を閉じ、モンマルトルの土になった。

本展は彼の没後20年を機に、初期から晩年に至るまでの90点を展示。絵画の向こうに暖かいまなざしを感じる展覧会だ。

ポスターの壁　1930年

モンマルトルの食料品店　1956年
岐阜県美術館



金のかたつむり　1978年　稲沢市荻須記念美術館

美術館インフォメーション

神戸市立小磯記念美術館

神戸市東灘区向洋町中5-7
☎078-857-5880
http://www.city.kobe.jp/cityoffice/57/koiso_museum/

■開館時間
10時～17時（入館は16時30分まで）
■休館日
月曜日（ただし9/18、10/2、10/9は開館、9/19は閉館）

Access
六甲ライナーアイランド北口駅下車、すぐ
※美術館の地下には市営駐車場（有料）があります

入館料

一般	800円
高大生	600円
小中生	400円

※10月3日（火）KOBE観光の日は無料開放

Fin 19e siècle Paris affiche et mode

ロートレック・ミュシャ・シェレ
19世紀末パリのポスターとモード展

開催中～10月10日(火)

アール・ヌーヴォー（新しい芸術）がロマンへと誘う19世紀後半のパリ。ロートレック、ミュシャ、シェレなどが活躍し、鮮やかなリトグラフのポスター芸術が街にあふれ出したこの時代は、大衆がアートを生み出した最初の時代と言える。

本展では当時を伝える貴重なポスターのみならず、写真やファッションを展示。ベル・エポック期へのタイムスリップへと誘う。

UNTITLED
Leopold E. Reutlinger
©1895-1915

Divan Japonais
Henri de TOULOUSE-LAUTREC
1892-1893
サントリーミュージアム［天保山］所蔵

元町画廊88周年記念
平田郁 油彩展

9月14日(木)～20日(水)

そこにためらいなどはない大胆なタッチ。しかし、人物や静物、街角などの対象を、しっかり掴んでいる。鮮烈さすら覚える色遣いといいききとした筆勢は、絵を描く悦びを表現しているかのよう。パリで磨かれたセンスがキャンバスに満ちあふれる絵画はまさに油「彩」、観る人の心にわくわく感を与えるような彩やかさがある。老舗の画商が賛辞を送る、女流画家が描く生き生きとした芸術の世界へ。

女の顔 4F

薔薇 10F

インフォメーション
元町画廊

神戸市中央区元町通1-7-2
☎078-331-2359

■営業時間
10時30分～18時
（最終日は17時まで）
■会期中無休

観覧料
無料

美術館インフォメーション
神戸ファッション美術館

神戸市東灘区向洋町中2-9-1
☎078-858-0050
http://www.fashionmuseum.or.jp/

■開館時間
10時～18時（入館は17時30分まで）
■休館日
水曜日（祝日の場合は翌日）

観覧料

一般	500円
小中高・65歳以上	250円

座談会　神戸人、フランスを語る

Les habitants de Kobe parlent de la France

出席者（順不同・敬称略）
井口泰子
（Art de Vivreライフコンサルタント）
竹本元一
（富士アトラス国際交流センター
観光イベント部長・パリ兵庫県人会会員）
西脇葉子
（シャンソン歌手）
ブルーノ・ルデルフ
（ル・コンドル・ブルー神戸校製菓主任教授）

神戸とフランスを肌で識るメンバーたちがテーブルを囲み、
神戸とフランスそれぞれのスタイルや、交流、まちづくりについて語り合った。
「しゃべってから口に手を当てても遅い」（フランスの諺）なんてことは気にしない！

自転車でビジネスできる?! ちょうどいい規模の街・神戸

―フランスと神戸をキーワードに自己紹介をお願いします。

井口　神戸生まれの私が、東京でフランス語を始めてから約35年、ほとんどフランス文化に浸って生きてきました。当時の日本にはフランス語の通訳があまりいなくて、必要とされている時期でした。たまたま神戸に帰ってきて日仏協会のお世話になりました。その後、フランス領事館経済部にスカウトされ、フランス大物産展のお手伝いをするなどしていましたが、どうしてもアートをやりたいという思いを捨て切れず、10年ほど前にアーティストビザをとり、6年間パリで暮らしました。

ブルーノ　私はノルマンディー生まれです。15歳からパティシエの仕事をしています。南フランス、北フランス、ドイツ、ベルギー、イタリアなどで働い

井口泰子さん

たあと、8年前に日本へ来ました。最初は横浜で1年間、ジャン・ミエのお菓子屋さんのシェフをしていました。その後、東京のル・コルドン・ブルーで4年仕事をして、3年前に神戸に来ました。今はとても日本が好きで、妻も日本人です。

西脇　パリと日本を1年間に5、6回は行ったり来たりする生活が12年あまりになります。シャンソンとシャンパーニュが好きだから…我ながら贅沢だと思います。パリではシャンソンのレッスンを受けたり、パーティで歌ったりしています。一昨年は松浦元駐仏大使主催のパーティで歌わせていただきました。神戸でも昨年に引き続き今年も神戸っ子主催のパーティで歌わせていただきます。その後、すぐまたパリへ行く予定です。

竹本　ぼくはチャンバラ好きで、小学生の頃に読んだ「三銃士」に憧れ、高校の時チキンをむしゃぶりながらワインを飲み、怒られたほど（笑）。その後、メルボルンで3年過ごしたある日、エディット・ピアフの歌を聞き、惹き付けられ、船で23日かけてスイスのジュネーヴへ行きました。コンセルバトワールのホルン科に入り学生ビザをとり、アルバイトで観光ガイドをしていましたが、その後、パリへ。観光ガイドをしたり、日本のマンガをフランスにはじめて紹介したり、語学やフラメンコを教えたり、フェンシングや乗馬をしたりして25年ほど暮らしていました。そして、3カ月前から神戸ポートアイランドの住民になりました。

—神戸にはどのような印象を持ちましたか。

竹本　パリで出会ったポートアイランドに最初に住んだ外国人、モハメッド・ゼクリウィというモロッコ人が、「神戸は世界で一番すばらしい街」と言っていましたが、実際に来てみたら本当でした。貿易港あり、倉庫あり、税関あり、海あり、山あり、温泉あり…。商業地区と官庁街が近いですから、自転車でもビジネスできるすばらしい街です。

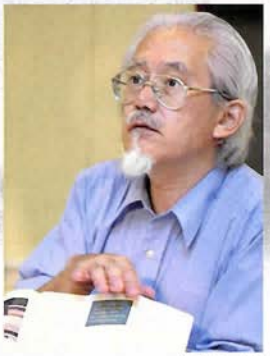
ブルーノ　神戸は、お菓子屋さん、フランス料理屋さんもたくさんあるおしゃれな街です。東京や大阪にもあるのでしょうが、街が大きすぎて分かりにくいですね。神戸はちょうどいい規模です。

日本は東京だけじゃない、フランスはパリだけじゃない

—神戸とフランスの街を比べてみてどうでしょう。

ブルーノ　日本は人が多すぎます。でも神戸はそうじゃない。道路が広くて、場所もたくさんあります。フランスの街のように歩く場所もたくさんあります。

　フランスにはパリしかないと思われているように、日本には東京しかないと思われています。神戸がとても暮らしやすくていい街だということが知られてい


竹本元一さん

ません。

竹本　例えばシャンソンはもともとパリに集まった外国人が創った文化とも言えます。パリには外のものを受け入れる懐の深さがあります。同じような雰囲気が神戸にもあると思います。

井口　神戸は居留地ができて創られた新しい街ですが、日本初の日仏協会が1900年に設立され、100年以上の歴史があります。1961年から神戸市とマルセイユは姉妹都市提携をしています。神戸市のバックアップもあり、日仏の交流が盛んでした。フランス領事館も神戸にありました。フランスの企業も関西に拠点を置き、神戸・阪神間にはフランス人ファミリーもたくさん住み、神戸でパリ祭や年末のダンスパーティーを開いたり、活発な交流がありました。ところが、震災後、さまざまな事情で様変わりしてしまいました。昔なつかしいフレンチテイストな活動が復活してくれればうれしいなと思っています。

―神戸といえばグルメ。フランスとの共通点ですね。

井口　神戸にはワインというプチフランスもあります。

西脇　でもやっぱりぶどう酒はフランスが一番。香りでは、フランスワインを越えるものはないわ。神戸ワインは今、ねかせている時期。これからですね。

ブルーノ　神戸には美味しい日本酒がたくさんあります。

西脇　日本酒も昔とは変わってきて、軽くて上品なものが多いですね。

井口　サラッとした日本酒は白ワインのような感じがあります。流行のお料理に合うんじゃないかな。

竹本　酒を通しての交流をやればいいなあ。灘もありますし。

西脇　フランス料理も変わってきましたね。まず、器。伝統的な器でなく、和のイメージの四角いものや白いものが最近多いですね。

井口　すしブームがあってフランス料理の器も変わってきたんでしょうね。

ブルーノ　フランスでは日本の「ZEN（禅）」のイメージがとても好まれています。

竹本　BSEパニックがあったり、日本人が長生きするのは生魚を食べるからだと言われたりして、今は日本食が大流行。ただし、日本人は労働ビザが取りにくいから、作っているのは日本人の職人じゃないけど。

西脇　私はパリへ美味しいものを食べに行ってますが、レストランで食べようとすると、とんでもなくお金がかかります。

竹本　パリは食べ物はあまり美味しくなくて高い。でもちょっと郊外に行くと、安くて美味しいものが食べられますよ。

ブルーノ　パリは東京みたいです。何でも高すぎます。ノルマンディーへ行っても、南フランスに行っても、いろいろな街があって、美味しいものもたくさんあります。

西脇　フランス人ですら、パリ

は嫌いだという人は私のまわりにも何人もいます。

井口　パリの住民はマルシェ（市場）で買い物をして自分で作ります。お客さまを招くときも、日本人のようにええカッコするんじゃなくて、自分なりのスタイルなのです。

西脇　日本はお金を使ってごちそうしないと満足しないようなところがありますからね。

竹本　フランスは食糧を120％自給自足できる国。世界から孤立したらアメリカは1、2カ月でダメだろうし、日本は3日で飢餓状態でしょうね。私たちはもう一人では生きていけないのですよ。外交・農業・畜産・漁業協定は大切です。フランスは良きパートナーになるべき国なんですよ。

お金をかけず生活をエンジョイするフランス人

―気質や考え方の違い、共通点は？

井口　フランスの気質は個人主義の上に立って相手の立場を考える。日本人には集団主義の感覚があって、先に相手のこと考えるから、思い込みから親切が始まる。どちらも優しさです。でも生き方の概念が違う。フランス人は生活をエンジョイする方法を心得ています。

西脇　フランス人は働いて貯金をするという考え方をしない。バカンスのために働いています。夏にバカンスに行けないと日焼けサロンに行くほど、バカンスがステイタス。でも、日本人は貯金をするために働いていますね。贅沢しているわけではないフランス人に「日本は貧乏でかわいそうな国ね」と言われます。

井口　人生最大の生きがいのバカンスでも、お金をあまり使わない楽しみ方をしていますよね。

竹本　ツール・ド・フランスが終わるとバカンスに行く。パリ市内は道が空くので道路工事が始まり、留守になるので空き巣が横行する季節。それがパリの7・8月です。

西脇　カーヴにある高級ワインを狙う空き巣がいるんですよ（笑）、日本では考えられないことですけどね。

井口　「パリシンドローム」ということばがあります。日本から、すばらしい所だと思ってパリに行っても受け止めてもらえない。トラブルが起こったときに、日本人は自分の意見を言わない。フランス人はまず意見を言う。まるで喧嘩ごしで理由をはっきり述べます。でも相手は「そうだ」と納得したらちゃんと動いてくれます。無口にニコニコしていると、日本なら「いい子やな」と思われるけれど、フランスでは「何も考えてないアホやな」と思われ無視される。

西脇　だから、フランスは好きだけどフランス人は嫌いということになる日本人が多いんですね。フランス語で話しかけないと答えてくれないと。最近は、「カワイイ」とか「ベツバラ」など、フランス語になった日本語もありますけどね（笑）。

西脇葉子さん

竹本　それだけ、日本の文化や経済がフランスに影響を与えているということでしょうね。

ブルーノ・ルデルフさん

調和と統一性のある街づくりを

―神戸を外国からも多くの人が訪れる街にするためのアドバイスはありますか。

竹本　外国から来た人が自分の国のことばでコミュニケーションできる街にすること。英語だけが外国語ではありません。

西脇　日本からはたくさんの人がフランスに行くのに、フランスから日本に来る人はほとんどいません。パリにはたくさんの若い日本人がいるのに、神戸に若いフランス人は一人もいない。私にはとても不思議です。

ブルーノ　日本はホテルも高すぎます。

竹本　いいえ、実は安くなってきているはずなのに、その情報をうまく発信する方法を日本が知らない。上手に観光客を誘致をして、受け皿さえしっかりすれば、これからは日本を訪れる外国人は増えるはずです。

井口　神戸には居留地があり、北野町があり、メリケン波止場があり…、自然に異国情緒が漂っています。ところが、震災後、神戸市が地域主導型をとり、NPOや地域の人と行政がバラバラにプランを立てています。観光客だけでなく、市民もやすらぎ、楽しめるトータルなプランニングが欠けているんじゃないでしょうか。

竹本　豊富な観光資源があるのにもったいないな。

ブルーノ　フランスは下を向いて歩いているととても汚い。でも、上を見ると、家や建物がすごくきれい。日本は下はきれいだけれど、上を見るときたない。例えば、電線がいっぱいです。フランスでは、地下に埋まっています。日本も田舎の家や田んぼの景色はきれいだと思います。

井口　そうですね。これまでの日本の街づくりのプランニングは市民のためではなく、経済原理に基づいてしまい全体の調和と統一性に欠けている部分がありますね。例えばフランスでは、広告塔など小物がアートになっています。フランス風にする必要はないのですが、高さ、形、色といった一般的な面で、神戸の中で統一性のあるものにできないでしょうか。

竹本　お金さえ儲かればなんでもありという、アメリカ的な考え方を改めないと。

井口　せめて私たち神戸人だけでもフランスに見習い、「そういう金儲け主義にはのらないぞ」というセンスのある街づくりができるといいですね。

（ル・コルドン・ブルー神戸校にて）

どこか統一された街並みが美しいモンマルトルの風景

Casablanca Français

カサブランカ フランセーズ

心まで洗われるようなナチュラルフレンチ

珠玉のお料理を味わいながらシャンパーニュ「Lanson」を飲めるのも嬉しい

オーナーシェフの音輪さん夫妻

素材からドリンクまでオーガニックにこだわる。使用している野菜は植物性肥料で育てられ、滋味が豊か。愛知沖で獲れた魚介などを野菜スープで蒸し焼しコクのある味を実現したキュイジーヌは、フランスの三つ星レストランで腕を磨いたオーナーシェフならではの。癒やしの雰囲気を持つ店内で味の小旅行を。

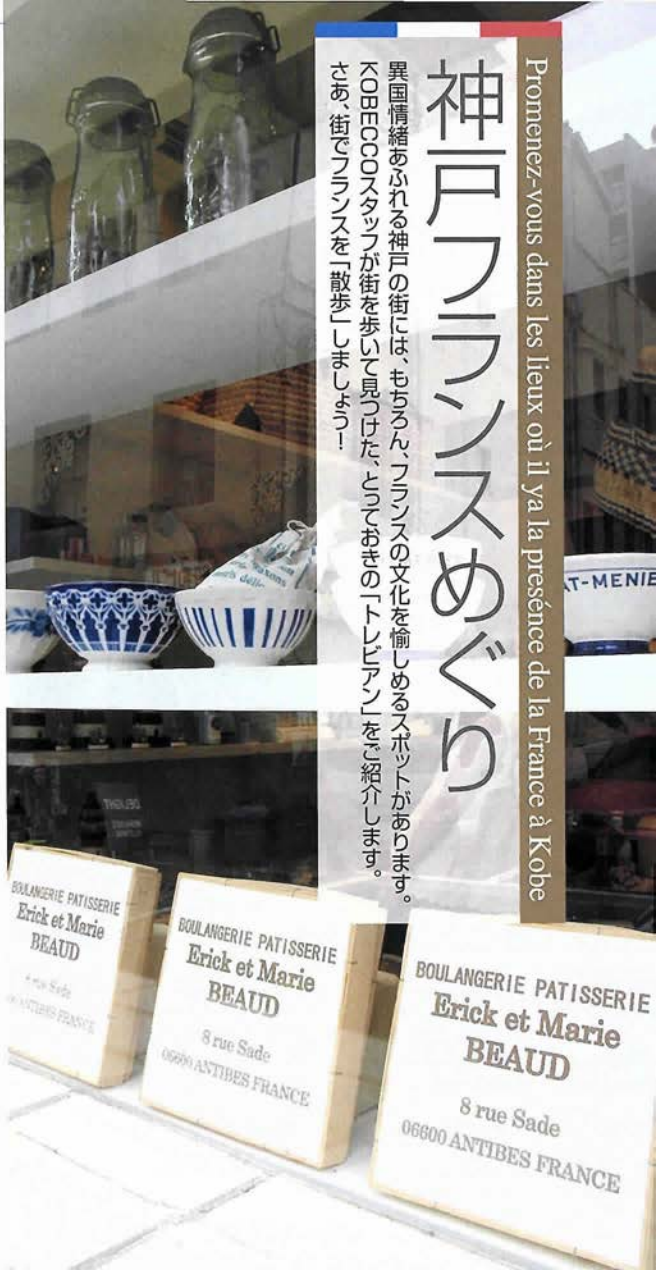
■カサブランカ フランセーズ

住　所 神戸市東灘区岡本3-6-15
電　話 078-436-0908
U R L http://akihideotowa.com
営業時間 9時～21時（LO）
定 休 日 木曜日

Promenez-vous dans les lieux où il ya la présénce de la France à Kobe

神戸フランスめぐり

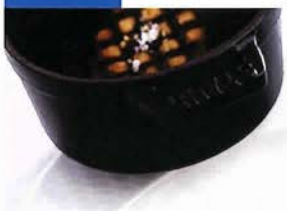
異国情緒あふれる神戸の街には、もちろん、フランスの文化を愉しめるスポットがあります。KOBECCOスタッフが街を歩いて見つけた、とっておきの「トレビアン」をご紹介します。さあ、街でフランスを「散歩」しましょう！



a ∫

フレンチレストラン アッシュ

フレンチは、次の領域へ



料理の新境地を切り拓く
山口浩総料理長

神戸北野ホテルのフレンチレストラン。山口浩総料理長のスペシャリテ、バターや生クリームをほとんど使わない「水のフレンチ」は、繊細な素材の味わいを引き出す「絶品」。フランスの有名レストラン「ラ・コート・ドール」のベルナール・ロワゾー氏より贈られた「世界一の朝食」も人気が高い。

■フレンチレストラン アッシュ

住　所 神戸市中央区山本通3-3-20
電　話 078-271-4007
U R L http://www.kobe-kitanohotel.co.jp/
営業時間 11時30分～14時（ランチ）
18時～21時（ディナー）
定休日 無休

Cafe Terrasse De Paris

カフェテラス・ド・パリ

洒脱な空間で本場のフレンチを

新しくオープンした北野坂「Cafe De Paris」の姉妹店は、南仏あたりのリゾートホテルを思わせる。ちょっぴり大人の雰囲気のカウンターでコニャックを味わうもよし、港を望むテラスでデカンタを傾けるもよし。ブイヤベースや手長海老のグリルなど地中海風の魚介料理が自慢。コースは要予約。

■カフェテラス・ド・パリ

住　所 神戸市中央区北野町4-9-2
異人館倶楽部パートⅢ-3F
電　話 078-252-1113
U R L http://cafe-de-paris.jp/
営業時間 17時～24時（平日）
12時～24時（土・日）
定休日 月曜日

Le Cordon Bleu Kobe

ル・コルドン・ブルー神戸校

神戸で学べるフランスの味覚

世界15カ国のネットワーク。日本には神戸校と代官山校の2校

1895年に創立された オードリー・ヘプバーン主演『麗しのサブリナ』の舞台にもなった、フランス、いや、世界を代表する料理学校の神戸校。フランス料理はもちろん、製菓やパンのコースも。一流のシェフ技術を五感で学び、キャリアの確かな第一歩を。初心者でも気軽に受講できる一日講座も人気。

■ル・コルドン・ブルー神戸校

住　所 神戸市中央区播磨町45
　　ザ・フォーティーフィフス6-7F
電　話 0120-138221
U R L http://cordonbleu.co.jp/

De La Nature

デュ・ラ・ナチュール

レトロで新しいフランス雑貨

アクセサリーや生活雑貨も多彩にラインナップ

乙仲通りに出現した〝プチフランス〟。小粋な店構えやかわいいショーウィンドーに、思わず立ち止まる人も。フランスで直接買い付けたアイテムも揃う。1960〜70年代のアンティークやブロカント雑貨は、ナチュラルで色遣いも素敵。洒落たステーショナリーやカフェオレボウル、マルシェのかごも人気。

■デュ・ラ・ナチュール

住　所 神戸市中央区栄町通2-1-1
電　話 078-393-5910
U R L http://www.delanature.com
営業時間 11時〜19時30分
定 休 日 水曜日